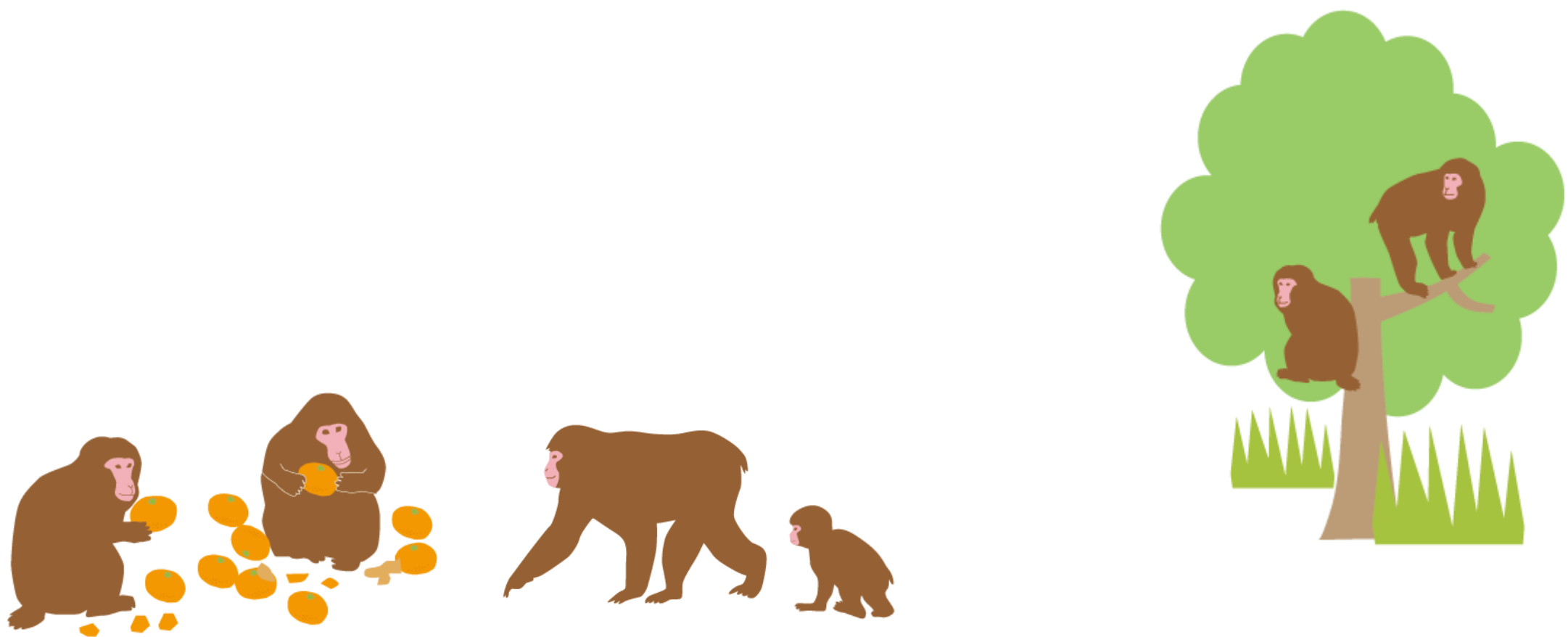
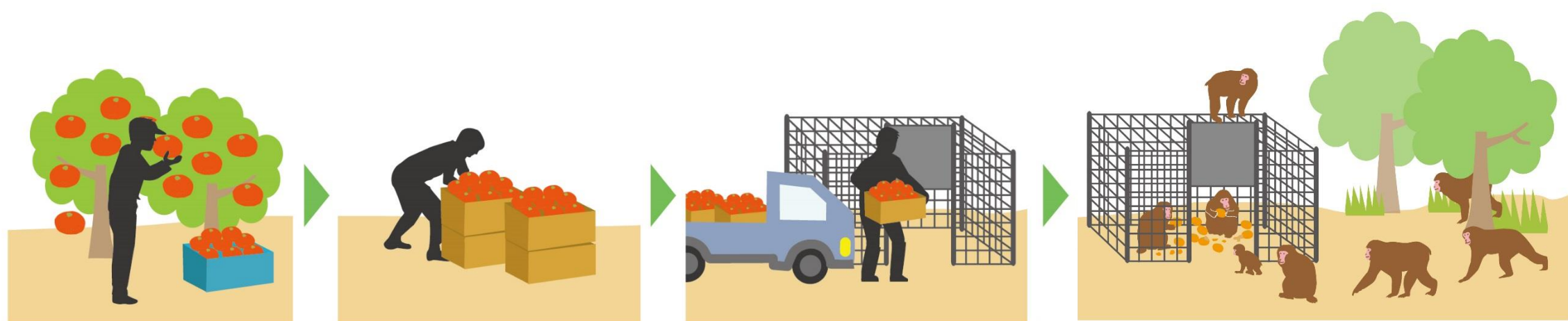




集落で取り組むわな捕獲マニュアル

～ニホンザル編～



徳島県

1. マニュアルの目的と使い方

本マニュアルは、わなによる捕獲技術の向上と、地域が一体となった捕獲体制の整備を図り、ニホンザルの個体数管理や農作物被害を軽減させることを目的に作成しました。

はこわなや囲いわなによる捕獲は、地域が一体となって取り組むことで、より効率的に推進することができます。地域ぐるみでの捕獲活動を推進することで、獣害に対抗できる強い集落をつくりましょう。

2. 注意事項

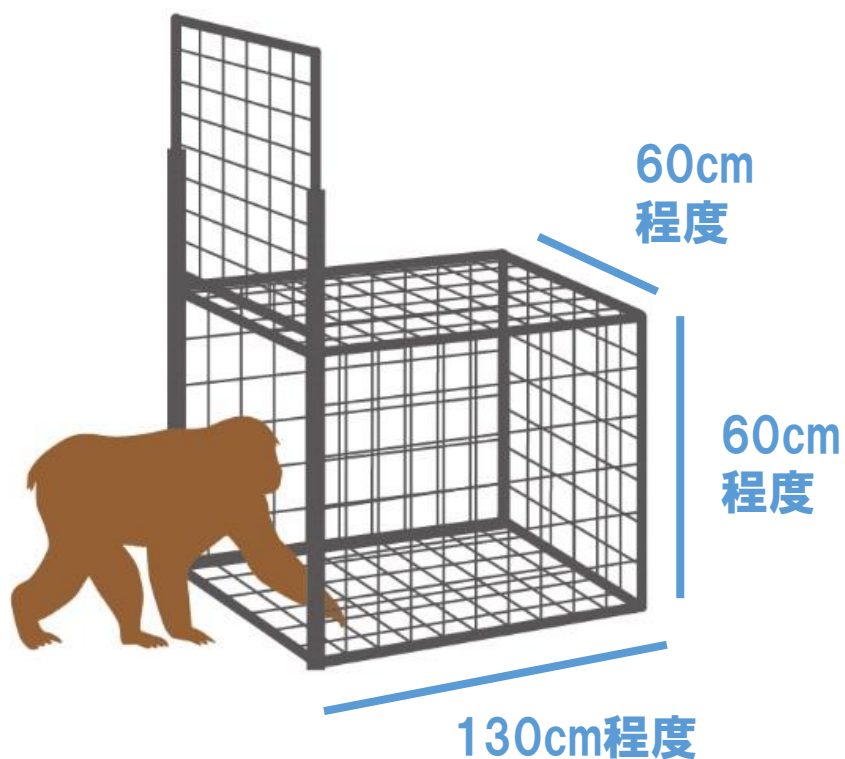
ニホンザルの捕獲には許可等が必要です。
このマニュアルは、法令に基づいた捕獲許可等を受けた方を対象に作成しています。法令やマナーを守って、安全に捕獲を行ってください。

目次	
1 マニュアルの目的と使い方	1
2 注意事項	1
3 わなの選び方	2
はこわな、囲いわなの捕獲手順	3
4 集落で捕獲に取り組むために必要なこと	4
5 捕獲の実践	6
はこわな、囲いわな管理チェックリスト	10

3. わなの選び方

わなには、様々な種類のものがあります。わなの特徴をよく知り、環境や状況にあったわなを効果的に配置しましょう。

はこわな(例)



わなのサイズについて

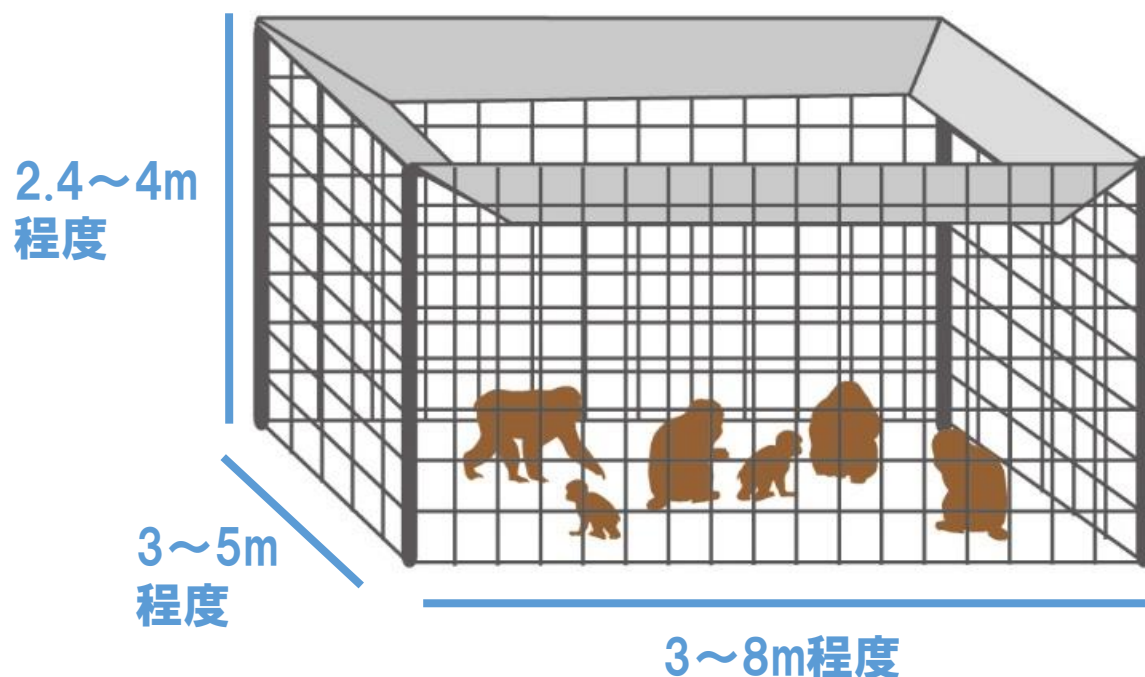
わなの奥行きが短いと、捕獲のタイミングが遅れたり、逃走される恐れがあります。



仕掛けの種類について

単一の仕掛けで捕獲を続けていると、徐々に捕れなくなってきます。捕れなくなったら、仕掛けを工夫してみましょう。

囲いわな(例)



忍び返しの構造について

一度進入したサルが逃げられないような構造が必要です。



わなのサイズについて

サルは、2m程度の高さまで跳び上がることができます。壁からの跳躍にも気をつけましょう。

【わな共通のチェック項目】

捕獲した獲物を逃がさないための仕様

格子の目合い	7cm × 7cm以下
鉄筋の太さ	Φ4mm以上
逃走防止用のストッパー※1	必須

※1 わなの中から扉を開けさせなくするための機構です。

エサ盗りを防止するため、わなの後方には目合いの細かい金網を張るのが有効です。



はこわな、囲いわなの捕獲手順

【集落で協力できること】

- 情報収集と提供
- 土地の提供、所有者との交渉

1

場所の選定

出没状況の確認
(広域での調査)

被害、目撃情報の収集

移動ルートの確認

被害発生時期と被害内容の確認

捕獲場所と捕獲時期、エサの種類の決定



2

わなの設置

- わなの設置補助
- エサの提供、草刈り(以後継続)

3

見回り・餌付け

- 誘引、捕獲状況の確認・報告
- エサの追加、交換

4

殺処分・死体の処理

- 死体の搬出補助
- 埋設場所、重機の提供

5

捕獲継続・中断・わな移設

- わなの移設補助

4. 集落で捕獲に取り組むために必要なこと

集落での捕獲を成功させるためには、必要な作業をみんなで分担することが重要です。

まずは、以下に示す作業リストを参考に、必要な作業をどのような体制で分担するか決めましょう。

作業項目	作業内容	作業頻度 必要な人数	作業者に求められる技術要件	狩猟免許 (わな)の要否
場所の選定	生息状況調査	2～3日 1～2名	ニホンザルの生態や痕跡、 行動様式等に関する最低限 の知識が必要	不要
	移動ルートの確認			
	被害状況の確認	2～3日 1名(分担可)	地域に特徴的な被害を抽出 することが重要	
	情報収集と提供	随時 地域全体	新鮮な情報を迅速に届けるこ とが重要	
	土地の提供 所有者との交渉	都度 近隣住民	捕獲に最適な土地を確保する ことが重要	
わなの設置	わなの設置	都度 4名以上		要
	わなの設置補助	都度 2～3名		不要
	エサの提供 (以後、継続)	随時 近隣住民	新鮮なエサを安定的に確保す ることが重要	
	草刈り (以後、継続)	適宜 近隣住民	定期的にわなの中や周囲の 環境を整えておくことが重要	
見回り・餌付け	誘引、捕獲状況の 確認・報告	毎日 1名(分担可)	食痕から、獲物の誘引状況を 判断する力が必要	
	エサの追加、交換		誘引状況を見て、追加する エサの量や配置を判断する 技術が必要。	
殺処分・死体の 処理	殺処分	都度 1～2名	作業者と周囲の協力者の安全 を確保することが最優先	要
	死体の搬出補助	都度 2～3名		不要
	埋設場所、重機等 の提供	都度 近隣住民		
捕獲継続・中断・ わな移設	わなの移設	都度 4名以上		要
	わなの移設補助	都度 2～3名		不要

5. 捕獲の実践

① 場所の選定

獲物が頻繁に利用している場所や移動ルートを見つけることが重要です。

地域住民が持っている最新の情報を集めることで、わなの設置適地を絞り込むことができます。

土地所有者との交渉には、地域住民の協力が不可欠です。

【生息状況の確認】(広域での調査)

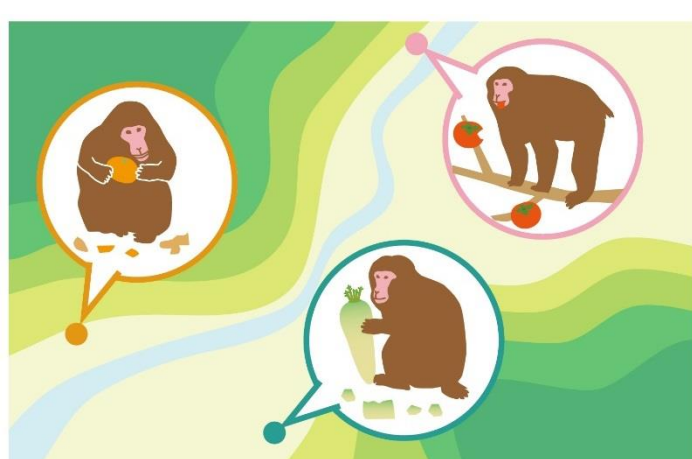


【移動ルートの確認】



- サルは、できるだけ人目につかずに目的地にたどり着ける最短ルートを選択する傾向があります。
- 目撃情報から、サルがなぜそのルートを選択するのか、理由を考えましょう。

【被害発生時期と被害内容の確認】



エサ選びのポイント
→

←被害作物は、サルがその時期に最も好むエサと言えます。

誘引用のエサ

遠くからでも見つけられるように、明るく目立つ色のエサが適しています。



吊り下げ用のエサ

わなの中や周りに針金などで吊り下げられるように、比較的硬めのエサが適しています。



わな内に滞在させるためのエサ

サルに持ち逃げされないように、小さいエサや小さく切ったエサが適しています。



季節ごとの被害作物や過去の捕獲実績から、捕獲に適したエサの種類を検討しましょう。

② わなの設置

①で選んだ捕獲場所にわなを設置します。

わなの設置場所は、下草の少ない見通しのよい平地を選びます。

わなの設置環境の整備やわなの搬送、エサの確保には地域住民の協力が不可欠です。

【捕獲に適したわな設置環境】



サルは、山すその見通しの良い環境を好んで利用します。
付近に周囲の安全を確認できる高い木や建物があることも重要です。

【わなの設置や捕獲の継続に必要な支援】



重いわなの運搬には
2～3人の人手が必要です。



新鮮なエサを安定して供給できる体制が必要です。
エサとなる作物の収穫、収穫したエサの保管、運搬には
人手や経費、場所の確保が不可欠です。

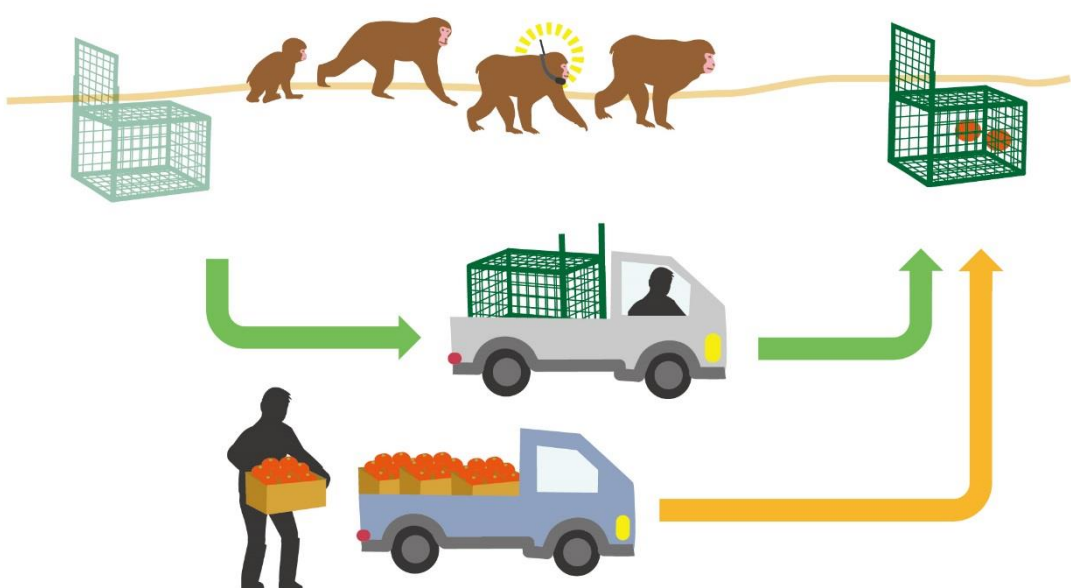
③ 見回り・餌付け

見回りと餌付けは、付近にサルがいる間は、毎日続けて実施します。

常に新鮮なエサを供給することで、獲物にわなを安定したエサ場と認識させることが目標です。

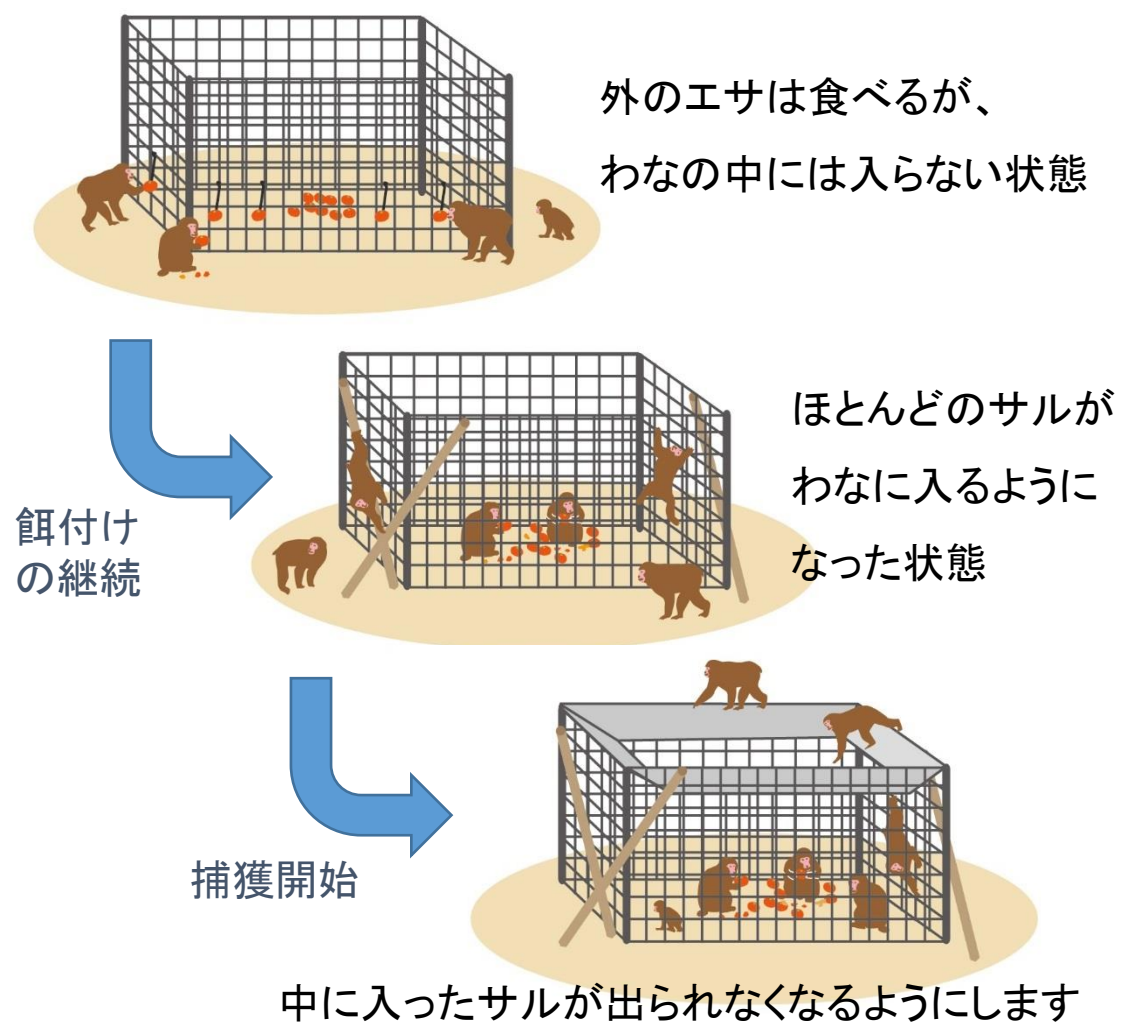
わなの中や周囲にエサを吊るすなどして、サルを目を引くことが重要です。

【小型はこわなによる捕獲方法】



機動力を生かした捕獲法が有効です。
サルの出没情報に合わせて、新鮮なエサを追加したり、わなを移動させることで効率よく捕獲することができます。

【罎いわなによる捕獲方法】

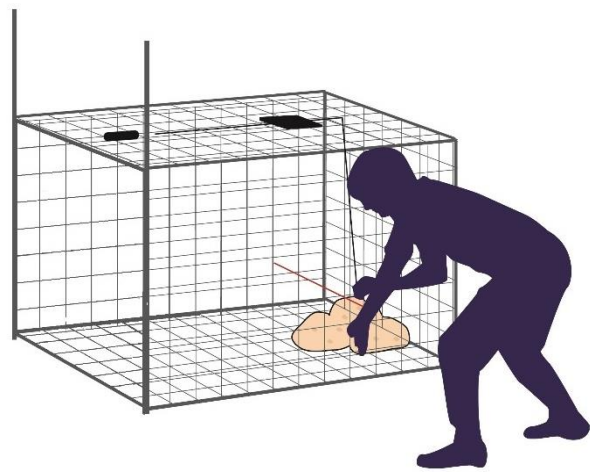


群れで出沒するサルに有効な捕獲法です。
継続的にエサやりを続けることで、効率よく
捕獲することができます。

【捕獲効率を向上させるために有効な支援】



毎日の餌付けは重労働
地域住民の理解と協力が
不可欠です



足跡やエサの食べられ方を見て、誘引状況を判断します



エサの食べられ方や捕獲状況を捕獲従事者と共有しましょう

④ 殺処分・死体の処理

殺処分は、作業員や周囲の人に危険が及ばないように、細心の注意が必要です。

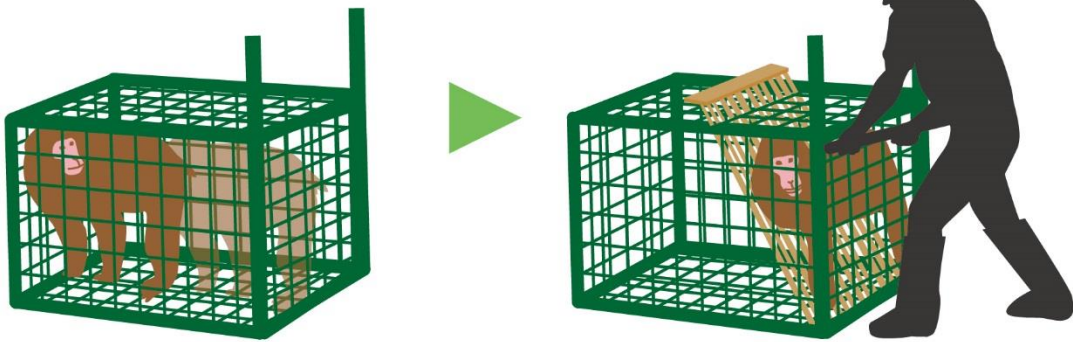
殺処分の方法は、状況にあった最も安全な方法を選びます。

殺処分後の死体を処理する場面でも、地域住民に協力できることはあります。

【安全で確実な殺処分の方法】

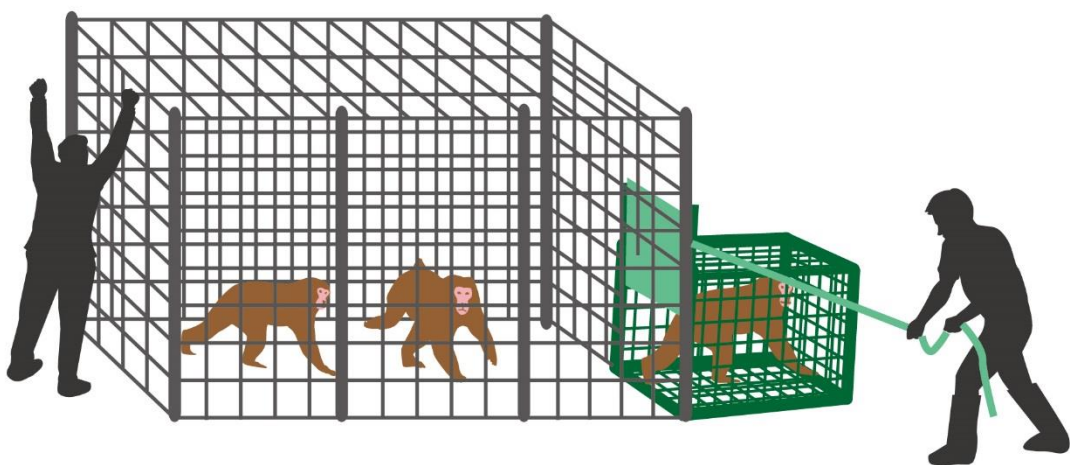
安全かつ確実に殺処分を行うには、
獲物の動きを完全に止めてから処置をすることが重要です。

小型はこわなで捕獲した場合



保定具でサルの動きを止めてから作業しましょう。

大型はこわなや囲いわなで捕獲した場合



小型の檻やネットにサルを誘導してから作業しましょう。

電殺器を使った殺処分の例



- 上半身と下半身に離して電極針を刺して、2～3分間通電することで、絶命します。
- 電殺器を安全に使用するためには、電気の性質や装置の構造に関する基本的な知識が必要です。

【死体の搬出や埋設の際の支援】



死体の搬出や、死体を埋めるための穴掘りには、大変な労力がかかります。
死体の搬出補助や埋設場所・穴を掘るための重機の提供など、
できる範囲で協力するようにしましょう。

⑤ 捕獲継続・中断・わな移設

わなの周囲に、まだサルがいる間は、捕獲を継続します。

餌付け開始から2週間が経過しても捕獲できない場合や、

捕獲後、しばらくサルの寄り付きがなくなった場合は、わなの移設や捕獲の中断を検討します。

【連続して捕獲できる可能性が高いケース】

一定の間隔で遊動域を周回するサルの場合、一度わなの付近に現れると、数日間は周辺に滞在する傾向があります。このため、捕獲完了後も、わなの周りにサルを見かけた場合は、速やかにわなを再セットすることで、連続して捕獲に成功することがあります。



【わなの移設や捕獲の中断を検討するタイミング】

季節により依存するエサ資源が変わったり、大きな環境の変化があると、サルの遊動域が突然、変わってしまうことがあります。

しばらくサルの寄り付きがなくなった場合、

■小型はこわなであれば、積極的に次の候補地に移設しましょう。

■大型のはこわなや囲いわなで移動が困難な場合は、群れがわなの周辺に再び現れるようになるまで、しばらく捕獲を中断しましょう。

【わなの移設を決める際の支援】



わなを移設する前に
移設候補地で事前の餌付けを行い、
エサの食いがよいか確かめます

移設先の土地所有者の
了解も得ておきます



重いわなの運搬には
2～3人の人手が必要です。

はこわな、囲いわな チェックリスト

地区名： _____ 記入日： / /

記入者名： _____ わな番号： _____

	チェック項目	状況	コメント
【わな設置前に確認する項目】			
1	設置候補地の周辺に 新旧複数の糞や食痕、目撃情報がある	はい・いいえ	
2	エサを撒くとすぐに完食される	はい・いいえ	
3	山際に、わなの設置に適した 見通しの良い平坦な場所を確保できる	はい・いいえ	
4	比較的交通量が少なく、サルが 安心してエサを食べられる環境である	はい・いいえ	
5	エサの入手ルートや保管場所、 毎日の餌付け体制などが整っている	はい・いいえ	
【サルがわなの中に入らないときに確認する項目】			
6	わなの周りには、 間違いなくサルが来ている（目撃情報）	はい・いいえ	
7	わなの外に設置したエサが完食されていて 周囲に新しいサルの痕跡が確認できる	はい・いいえ	
8	わなの中のエサは、 常に新鮮な状態を保てている	はい・いいえ	
9	わなの外側からは、 エサを盗れないように工夫している	はい・いいえ	
【サルがわな内に入っているが捕獲できないときに確認する項目】			
10	仕掛けを動かすと、わなは正常に作動する	はい・いいえ	
11	明らかに、仕掛けが接続されたエサだけを 敬遠している	はい・いいえ	
12	わなの大きさや仕掛けの位置は適切である	はい・いいえ	
特 記 事 項			

集落で取り組むわな捕獲マニュアル ～ニホンザル編～

平成29年3月 初版
■編集・発行／株式会社野生鳥獣対策連携センター（兵庫県丹波市青垣町佐治8-2）
■イラスト／米澤 里美
■引用・参照
「ニホンザル捕獲技術プログラム」（香川県環境森林部みどり保全課）